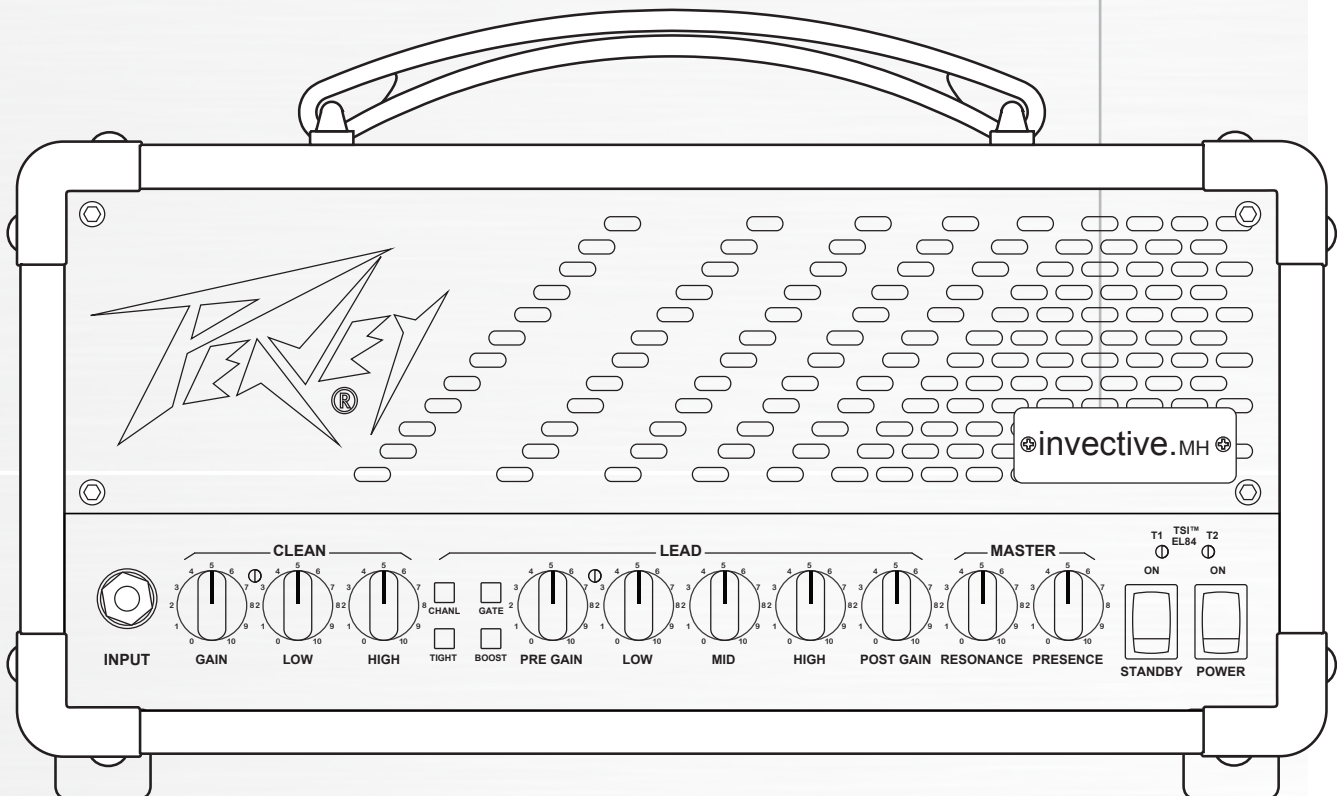




# Peavey® invective MH 20W チューブギターアンプ

取扱説明書



# Peavey® invective MH

Peavey invective.MHをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

このアンプは2018年発売開始となった【invective.120】のサウンドを継承したミニサイズ・20Wアンプヘッドです。

invective.120のサウンドをミニヘッドサイズに凝縮し、クリーンチャンネルは、[Pedal-Friendly Design]というコンセプトの元、外部ペダルとの相性を考え、癖のないピュアなクリーントーンを実現。

リードチャンネルは、Peaveyが作り上げたアンプの名機【5150】・【6505】のサウンドを継承したモダンかつ重厚なサウンドを生み出します。

また、小型サイズながらも、エフェクトループ/マイクシミュレートダイレクトインターフェース(MSDI)/XLR出力/USB出力など多くの実践的な機能搭載し、ハイクオリティなサウンドを手軽にお楽しみいただけます。

最後に、本機を安全かつ、性能を最大限引き出してご使用していただくためにも、必ず最初に本書をお読みの上、ご使用ください。

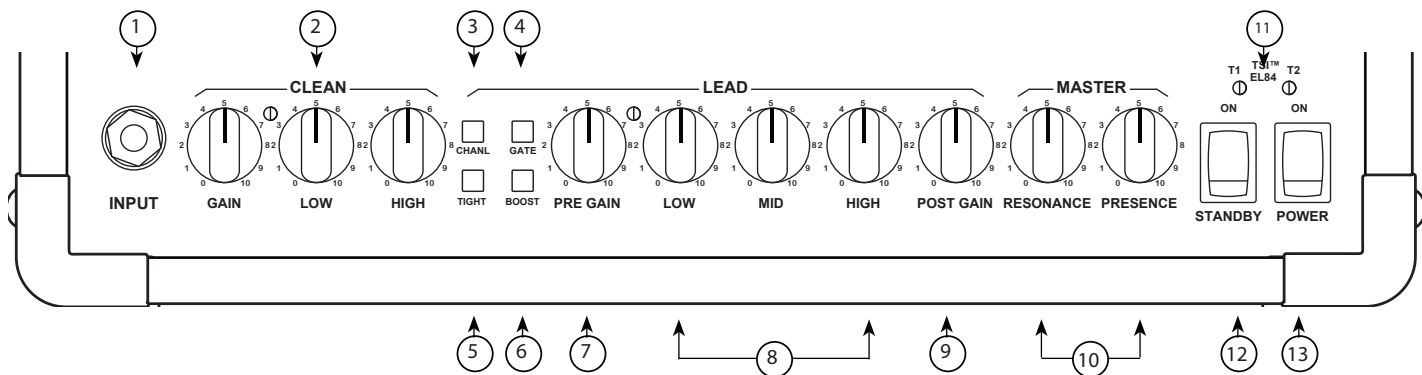
## 特徴

- プリ/JJ ECC83S x3 ・ パワー/JJ EL84x2
- Clean Channel (Low / High EQ搭載)
- Lead Channel (3バンドEQ搭載)
- フットスイッチ対応タイト
- フットスイッチ対応ゲート&ブースト
- フットスイッチ対応ゲート&ブースト
- フットスイッチ対応バッファードエフェクトループ
- チューブステータス表示 (T.S.I.) 回路
- インピーダンスセレクトタ(8Ω / 16Ω)
- グランドリフトスイッチ搭載XLR(MSDI)出力
- USB出力
- スピーカーディフィートスイッチ
- ヘッドホン出力
- 出力切替スイッチ (20w-5w-1w)
- レゾナンス/プレゼンスコントロール



換気をよくするため、本体と可燃物表面の間は約 60 cm以上空けてください。  
本体内部を空気が流れて冷却できるように、すべての通気口に約 5 cmの空きスペースを設けてください。

# フロントパネル



## ① インプット (フォーンジャック)

エレキギターまたはアンプの前にエフェクトを使用する場合は、最後のペダル出力をこのジャックに挿します。

## ② クリーンチャンネルゲインとEQコントロール

クリーンチャンネル用のボリューム&トーンコントロールセクションになります。  
2つのトーンノブで、低音域(LOW)と高音域(HIGH)を調整します。

## ③ チャンネルスイッチ

このスイッチで2つのチャンネルを選択します。  
スイッチの“イン”位置はリードチャンネル、“アウト”位置はクリーンチャンネルになります。

注意:チャンネルは付属のフットスイッチからでも選択できます。

背面の(26)CHNLジャックに付属のフットスイッチを接続し、このスイッチを押し込んだ状態にした場合、リモートでチャンネル切替が出来ます。

## ④ ゲートスイッチ

このゲートスイッチは、シンプルなノイズゲートではなく、他のハイゲインアンプにない、より緻密で正確なミュートプレイを可能にするため、(6)ブーストスイッチと合わせて使用していただくことを前提としております。  
なお、背面の(26)BS+GATEジャックに付属のフットスイッチを接続し、このスイッチとブーストスイッチを押し込んだ状態(ON)にした場合、フットスイッチで両機能のON/OFFを一括でコントロールすることが出来ます。

## ⑤ タイトスイッチ

このタイトスイッチを押すことにより、リードチャンネルのゲイン量が減り、EQの設定が少し変更されます。  
こうすることにより、オリジナルのinvective.120に搭載されているクランチチャンネルに近いサウンドを得ることが出来、クリーン・リードの2チャンネルに加え、3チャンネル目を擬似的に作り出します。  
なお、背面の(26)TIGHTジャックに付属のフットスイッチを接続し、このスイッチを押し込んだ状態(ON)にした場合、フットスイッチでこの機能のON/OFFをコントロールすることが出来ます。

## ⑥ ブーストスイッチ

このブーストスイッチを押すことにより、リードチャンネルのサウンドにさらにドライブペダルのテイストを加え、サウンドを変化させることができます。このサウンドは、invective.120同様、このアンプの共同開発者でもあるMisha Mansoorの好むセッティングであり、ドライブやトーンのセッティングの値に関しては固定となります。  
なお、前述の通り、背面の(26)BS+GATEジャックに付属のフットスイッチを接続し、このブーストスイッチを押し込んだ状態(ON)にした場合、フットスイッチでこの機能のON/OFFをコントロールすることが出来ます。

## ⑦ リードプリゲイン

リードチャンネルのインプットボリューム(ゲイン)レベルを調整します。  
このノブを右に回すと歪みとサステインが増します。

## ⑧ ロー、ミドル、ハイEQ

LOW (ロー/低音域)、MID (ミドル/中音域)、HIGH (ハイ/高音域)の各ノブでリードチャンネルのトーンを調整します。

9 **ポストゲインコントロール**

リードチャンネルのボリュームをこのノブで調整します。

10 **レゾナンス&プレゼンスコントロール**

パワーアンプ部分のダンピングファクターを調整します。

右側のプレゼンスのノブを右に回すと、EQ HIGHの調整可能音域よりも更に、高音域の周波数帯がブーストされます。また、左側のレゾナンスを右に回すと、EQ LOWの調整可能音域よりも更に、低音域の周波数帯がブーストされます。この2つのノブは、全共通チャンネル共通となります。

11 **T.S.I.<sup>™</sup> (Tube Status indication) LED**

モニター対象出力チューブのスタートに応じて緑色または赤色に点灯するLEDです。

これより幅広いステータス表示回路、障害検出回路、チューブ保護回路を目に見える形にしたものです。

LED T1、T2は、前面から見て左から右の順にEL84パワーチューブに対応します。

この回路を簡単に説明すると、通常の動作モードのときLEDは緑色、次を含む他のモードのとき赤色になります。(スタンバイ、低バイアス、低電流(チューブ出力低下)またはチューブ保護回路でアクティブ化する高電流障害状態)

詳細は次のとおりです。

スタンバイではLEDは赤色です。これはチューブがまだ完全にオンになっていないためです。

スタンバイからオンに切り替わると赤色から緑色に変わります。通常の動作条件下、LEDは緑色です。

LEDが赤色になると、次の理由から出力チューブは正常に動作していません。

- チューブが低電流: これはバイアスが正しくないか、エイジングによる低電流、構造上/物理的な障害による開回路、またはフィラメントヒーター電源がないために起きます。

- チューブが過電流: この場合、リセット可能な保護回路がオンになり、破損が大きくなるのを防ぎ、アンプが残りのチューブで動作を続けられるようにします。これはバイアス障害、チューブの過熱または他の障害によって生じ、電流の引き込みが過剰になります。

リセット: 場合によっては(再生に間を置くことで)保護回路が自動的にリセットされ、チューブがオン状態に戻ります。障害が残る場合、LEDは赤色のままです。このような状態では、あるポイントでアンプが数分間オフになって再びオンに戻ります。まだ障害が残る場合、資格のある技術者がアンプをチェックし、出力チューブのバイアスが正しいか、チューブに障害がないか確認する必要があります。

12 **スタンバイスイッチ**

(13)の電源をONにし、しばらく真空管を暖めた後、このスイッチをONにするとアンプに電気が供給され、音を出すことができます。なお、スタンバイスイッチをONにする前に、少なくとも1分は真空管を暖めてください。

注: このスイッチは電源スイッチ(13)に代わるものではありません。

長時間アンプを使用しない時は、電源スイッチで(13)アンプをオフにしてください。

またノイズを防ぐため、アンプを完全にオフにする前に少なくとも数秒間は“スタンバイ”にすることをおすすめします。



注意: “スタンバイモード”の時間が長過ぎる場合(1時間以上)、真空管のカソードに負荷がかかるため、出力チューブが破損する原因になります。

13 電源スイッチ

アンプの主電源となります。このスイッチをONにすると、(11)T.S.I.<sup>TM</sup> (Tube Status indication) LEDが赤く点灯し電源が入っていることを知らせます。

注意:アンプの電源を初めてONにする時は、必ず(12)スタンバイスイッチはスタンバイにセットしてください。

電源投入の正しい手順は次のとおりです。

使用前、電源・スタンバイスイッチはどちらもOFF位置にしてください。

電源スイッチをONにし、真空管が暖まるまで1分以上待ちます。

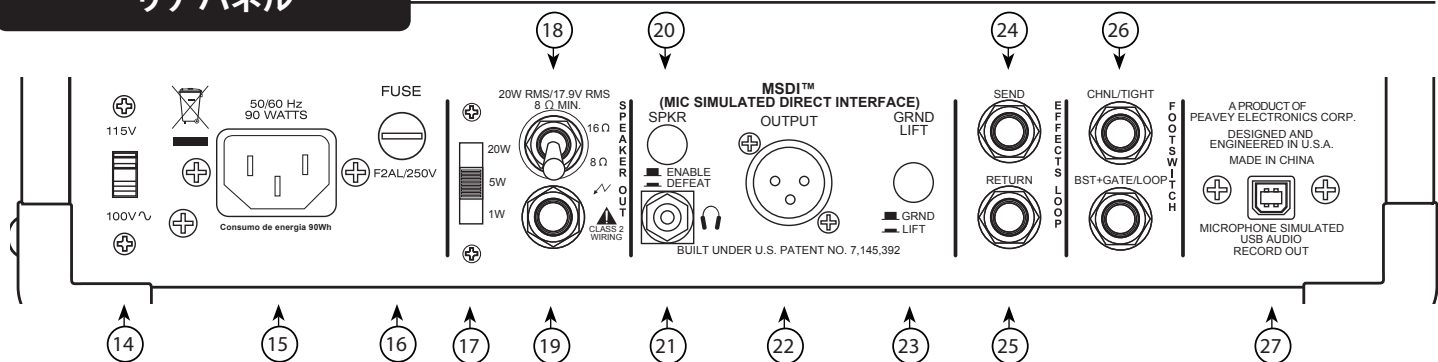
次にスタンバイをONにし、アンプを通常通り使用します。

短時間の休憩時等はスタンバイをOFFにします。

演奏後、スタンバイをOFFにし、数秒以上置いた後電源をOFFにします。



## リアパネル



### 14 電圧セレクタスイッチ

2つのACライン/主電源電圧を選択します。工場出荷時には予め現地のライン/主電源電圧に設定してあります。  
注意:日本国内で使用の際は、[100V]が選択されていることを必ずご確認ください。

### 15 AC電源ソケット

本体にAC電源を供給するためのソケットです。電源コードをこのソケットに接続し、電源を本体に供給します。適切な電源コードが使用されていない場合、本機の破損につながる恐れがありますので、必ず付属のケーブルをご使用ください。

警告:どのような場合でもアースコードは決して取り外さないでください。アースコードは安全のために取り付けられています。感電や火災の事故を避けるため、アンプ及び関連する全ての機器が正しくアース接続されているか必ず確認してください。

Note for UK ONLY

As the colors of the wires in the mains lead of this apparatus may not correspond with the colored markings identifying the terminals in your plug, proceed as follows: (1) The wire that is colored green and yellow must be connected to the terminal that is marked by the letter E, or by the Earth symbol, or colored green or green and yellow. (2) The wire that is colored blue must be connected to the terminal that is marked with the letter N, or the color black. (3) The wire that is colored brown must be connected to the terminal that is marked with the letter L, or the color red.

感電のリスクをなくすため、本体に電源が供給されている時に、空いているチューブソケットに指などを入れることは避けてください。

### 16 ヒューズ

ヒューズはアンプの主電源用に取り付けられており、ヒューズホルダーのキャップ内に収められています。ヒューズを交換する時は、必ず同じヒューズをお使いください。もし違うタイプのヒューズを使用し、アンプが損傷した場合、メーカーの正規保証期間内修理を受けることはできません。ヒューズが何度も切れてしまう場合は、購入された販売店経由でPeavey国内正規代理店へ修理に出してください。

警告:ヒューズを交換する際は、必ず電源コードを本機から外した状態で行ってください。

### 17 出力切替スイッチ

アンプ出力を調整する3ポジションスイッチです。アンプの最大出力を定格出力の100%(20W)、25%(5W)、5%(1W)に切り替えることができます。これにより、低いW数でもボリュームを絞ることなくパワーアンプの特徴的なオーバードライブ、サチュレーション感を得ることができます。

低い出力では、トーンを調整するためにレゾナンスとプレゼンスを少し上げる必要があるかもしれません。これはスピーカーのドライブが少ない場合に減数係数が変化することによります。

### 18 インピーダンスセレクト

スピーカーキャビネットのインピーダンスに合わせた値を設定します。  
同じインピーダンスのキャビネットを2台使用する場合、アンプ側のインピーダンスは、キャビネットのインピーダンスの半分の値に彫っています。  
例えば、16Ωのキャビネットを2台使用する場合は、8Ωに設定してください。  
8Ωキャビネットが2台の場合は4Ωとなります。

### 19 スピーカーアウトプット

スピーカーキャビネットとの接続に使用します。接続の際、アンプの(18)インピーダンスセレクトの値とキャビネットのインピーダンスが合っていることを必ずご確認ください。  
また、楽器用のケーブルではなく、高品質のスピーカーケーブルを必ずご使用ください。



注意:スピーカーケーブルの抜き挿しは電源OFF時に行ってください。

### 20 スピーカーイネーブル/ディフィートスイッチ

このスイッチを押すことで、(19)スピーカーアウトプットに接続されたスピーカーキャビネットへの出力を遮断し、出力を内部ダミーロードにリダイレクトします。これによりMSDI™出力、USB出力またはヘッドホン出力からの信号を使い、実際にスピーカーキャビネットを使用することなくモニターできます。



注意:この機能はスピーカーキャビネットを(19)スピーカーアウトプットに接続せずにアンプを使用する場合に使います。

### 21 ヘッドフォンアウトプット

ステレオミニジャックを介してヘッドフォン/イヤホンに接続するための出力です。  
(20)スピーカーディフィートに設定すれば、スピーカーキャビネットから音を出さずにヘッドホンのみで練習できます。  
アウトプットはMSDI™回路(下記参照)でシミュレートされたサウンドが出力されます。

### 22 マイクシミュレートダイレクトインタフェース - MSDI™

Peavey独自のMSDI™(マイクシミュレートダイレクトインタフェース/XLR)端子は、本機を12"スピーカーコーンから約20cm離れマイクで集音した時のサウンドを忠実に再現し、外部機器やミキサーと接続することができます。

### 23 グランドリフトスイッチ

グランドリフトスイッチは、本機と外部機器の間でグラウンドループノイズが発生した場合に使用します。  
通常はグランドの状態でご使用ください。

### 24 エフェクトループセンド

本機に入力された音を外部エフェクターに送る出力ジャックです。(フットスイッチでON/OFFの切替可能)  
センド出力は常にアクティブなのでプリアンプアウトを別のアンプ等にも送る時にも便利です。

## 25 エフェクトループリターン

(24)で送った外部エフェクターからのアウトをここに戻します。プラグをこのジャックに挿し込むと、(24)エフェクトループセンドジャックからの信号パスが遮断されます。エフェクトループを使用する場合は自動的にONになります。ただしフットスイッチはエフェクトループをバイパスするためにも使用できます。(下記参照)

## 26 フットスイッチジャック

付属のフットスイッチ(Multi-Purpose 2 Btn Footswitch w-LEDs #03022920)を接続し、各機能の切替を行います。

## ・ トップジャック (CHNL/TIGHT)

フットスイッチ左: クリーンチャンネル/リードチャンネルを選択します。  
(3)のチャンネルスイッチは押し込んだ状態にします。

フットスイッチ右: タイトスイッチのON/OFFをコントロールします。  
(5)のタイトスイッチを押し込んだ状態にします。

## ・ ボトムジャック (BST+GATE/LOOP)

フットスイッチ左: エフェクトループのON/OFFをコントロールします。LEDが点灯している時はエフェクトループはONになります。フットスイッチが接続されていない場合、エフェクトループはデフォルトでONになります。

フットスイッチ左: (4)ゲートスイッチ・(6)ブーストスイッチのON/OFFをコントロールします。  
フロントパネルの両方のスイッチが押し込まれた状態では、両方の機能がアクティブになります。  
どちらか一方のスイッチが押し込まれた場合は、その機能のみアクティブになります。  
両方のスイッチが押し込まれていない場合は、フットスイッチの効果はありません。


動作エラーなどが起きないように、フットスイッチを使用する際は常に、プラグを(2回クリック音が聞こえるまで)フットスイッチジャックにしっかりと挿し込んでください。

## 27 マイクシミュレートUSBアウトプット

このUSBアウトプットはドライバを追加する事なく、標準USB2.0ケーブルをコンピュータに接続するだけで、オーディオデバイスとして検知されます。  
出力はMSDI™から引き出され、良質なサウンドを録音することが可能です。(別途DAWソフトが必要)

これは(17)出力切替スイッチ・(20)スピーカーイネーブル/ディフィートスイッチ関係なく使用でき、USBオーディオレベルではほとんど違いがありません。従ってアンプ出力を1Wにしたとき、またスピーカーディフィートスイッチをONに設定していても、良好かつ強い信号を記録できます。USBアウトプットからの実際の信号レベルはコントロールの設定によって異なります。ただし、各ユニットは広範囲のサウンドとレベルが全てUSBヘッドルーム内に収まるよう調整されています。特にデジタルの場合、他の録音と同様に、不要な歪を防ぐように設定してください。

## \* パワー管について

 警告: パワー管(EL84)を交換した場合は、アンプのバイアスも変更する必要があります。  
お客様自身で行われると怪我や事故につながる可能性もあるため、パワー管の交換に関しては、必ず購入された販売店へご相談の上、Peavey国内正規代理店へご連絡ください。(別途有料となります。)  
お客様自身で行われた真空管交換時に発生した故障や損害に関しては、いかなる理由においてもメーカーの正規保証修理を受けることは出来ません。  
また、パワー管の経年劣化による交換は、メーカーの正規保証の対象外となります。



# invective MH

## 20W チューブギターアンプ仕様

定格出力: 20W(RMS) 8Ω-16Ω

消費電力(メーカー公表値): 90W、50/60Hz、100VAC

真空管関連: EL84x2、12AX7/ECC83x3

寸法(H x W x D): 185mm x 356mm x 197mm  
(高さは脚とハンドルを含みます)

重量: 8kg

### プリアンプ仕様

- プリアンプ入力:  
インピーダンス: Very High-Z、1MΩ
  - エフェクトセンド:  
ローインピーダンス: To High-Z、22kΩ or greater  
ノミナル出力レベル: 0dBV、1.0V(RMS)
  - エフェクトリターン:  
インピーダンス: High-Z、100kΩ  
設計入力レベル: 0dBV、1.0V(RMS)
  - リモートフットスイッチ: (付属)  
Multi-Purpose 2 Btn Footswitch w-LEDs (#:03022920)
  - チャンネル選択  
タイトスイッチ
- セカンドフットスイッチは  
エフェクトループ  
ゲート・ブーストスイッチをコントロールできます。

### 他の仕様

- 信号ノイズ比:  
全モデルで74dB以上(フル出力に対して)  
注意: プリアンプ設定によって異なります。
- MSDI™アウトプット:  
ローインピーダンス: 600Ω  
出力レベル: 全モデルでフル出力時、-12dB(+/-3dB)  
注意: コントロールによって異なります。
- USBアウトプット:  
出力レベル: 全モデルでフル出力時、-6dB(+/-3dB)  
注意: コントロールによって異なります。
- 出力切替スイッチ:  
定格出力を3段階に変更。100%(20W)、25%(5W)、5%(1W)
- ヘッドフォンアウトプット:  
ステレオミニジャックは、ステレオヘステレオヘッドフォン用に出力  
各チャンネルのインピーダンス、16Ω - 50Ω

商品の仕様等につきましては予告なく変更される場合もございます。予めご了承をお願いいたします。



Ippinkan Corporation  
Musical Instruments Division

株式会社 逸品館 MI事業部

〒223-0052 神奈川県横浜市港北区綱島東6-8-20

Tel : 045-633-7530 Fax : 045-633-7531

E-mail : [ippinkan.mi@otoiwase.jp](mailto:ippinkan.mi@otoiwase.jp)

Web : [ippinkan-music.jp](http://ippinkan-music.jp)